

## 公共交通機関等におけるベビーカー利用に係る 主な論点と基本的考え方

### 1. 公共交通機関等におけるベビーカー利用に係る主な論点

ベビーカー利用に係る実態や利用者、周囲の人々の意見等を整理した結果、鉄道駅のエレベーターや車両等の乗車方法など、公共交通機関の利用において、様々な課題が存在していることが明らかとなった。また、その他の商業建築物等においても、エレベーターの利用方法等において課題があることが分かった（資料1）。

以下では、これらの課題を総括して、共通すると考えられる論点について整理する。

#### (1) ベビーカー利用に対する「理解」に係る論点

- ・ベビーカー利用者からは周囲の態度（マナー）について、周囲の一般利用者からはベビーカー利用者の態度（マナー）について、双方の態度に不満を呈する意見がある。
- ・お互いに思いやりの気持ちを持つべきといった、双方の配慮を求める意見もある。
- ・現在の子育て環境においてはベビーカー利用が必須であることを前提に、双方の理解を深める取組が求められる。

#### (2) ベビーカー利用における「安全性」に係る論点

- ・ベビーカーをエスカレーターで利用する際に転倒する、車両等へ乗車する際にホームと車両の間にベビーカーの車輪が挟まる等、公共交通機関等をベビーカーで利用する際に生じる危険性に対処できていないことを指摘する声がある。
- ・これは、ベビーカーの製品安全上の使用方法に加え、公共交通機関等を利用する際にベビーカー利用者が遵守すべき使用方法が明らかになっていないことが主な要因と考えられる。
- ・ベビーカーに乗っている乳幼児の安全性を確保する観点からも、早急に解決する必要がある。

#### (3) ベビーカー利用者と一般利用者等との「競合」に係る論点

- ・公共交通機関等におけるベビーカー利用に係る様々な関係者の意見は、駅舎やデパート等のエレベーター、満員の通勤電車、特急車両の通路など、特定の場所に起因する意見が多くみられる。
- ・これは、エレベーターや車両等といった限られたスペースにおいて、ベビーカー利用者と周囲の一般利用者との間で競合が生じることが要因と考えられる。特に複数のベビーカーが集中した際に、より事態が深刻になる。
- ・また、高齢者、障害者等と競合した場合において、どちらが優先されるのかについての議論がある。
- ・公共交通機関等は、様々な利用者が利用する施設であることを踏まえ、それぞれの利用者がお互いに少しずつ譲りながら利用できる方策が求められる。

## 2. 公共交通機関等におけるベビーカー利用に係る基本的考え方

ベビーカー利用に係る様々な課題に対して、公共交通機関、子育て団体等では、それぞれ様々な取組を行っている（資料2）ところであるが、1. の論点ごとに、課題解決に向け取り組むべき対応の基本的考え方について整理した。

ソフト対策等の即座に対応可能なものや安全対策等の早急に対応すべきものについては〈短期的な対応〉とし、ハード面の整備が必要なものや新たな研究開発が必要なものについては〈中長期的な対応〉と整理した。

### (1) ベビーカー利用に対する「理解」への対応

#### 〈短期的な対応〉

- ・公共交通機関等において、ベビーカー利用者及び一般利用者の双方の「理解」の不足を解消するため、ベビーカー利用に係る普及・啓発を図ることが必要である。
- ・普及・啓発の手段としては、各地域においてシンポジウムを開催することや、鉄道駅等の多数の利用者の目に付く場所へのポスター等の掲示、ベビーカー販売時の周知や子育て関係メディアを通じた広報などが考えられる。

### (2) ベビーカー利用における「安全性」への対応

#### 〈短期的な対応〉

- ・エレベーター等の設備や車両等の構造、一般的なベビーカーの形状等を踏まえ、公共交通機関等を安全に利用するための「ルール」を定め、普及していく必要がある。
- ・また、ベビーカーに乗っている乳幼児や周囲の人々の安全性の観点から、通路幅の限られる特急型車両においてはベビーカーを畳むことや、ベビーカーに乳幼児を乗せたまま利用することが危険なエスカレーター等においてはベビーカーを利用しないことなど、特定の設備・場所等においては、ルールの普及だけでなく、ルールを視覚的に教示する「マーク」を掲示することも必要と考えられる。

#### 〈中長期的な対応〉

- ・公共交通機関等、様々な施設における利用を念頭に、より安全な構造のベビーカーの開発を促進していくことも必要と考えられる。

### (3) ベビーカー利用者と一般利用者の「競合」への対応

#### 〈短期的な対応〉

- ・様々な利用者による適切な譲り合いを促す方策として、「ベビーカー優先スペース」を明確にし、その普及を図ることが考えられる。
- ・その際、ベビーカー利用者が移動に困難を有していることや、比較的広いスペースを必要としていることに鑑みれば、エレベーターや車両等に設けられた車いすスペース等のバリアフリー設備を「ベビーカー優先スペース」としても用いることが考えられるが、その場合であっても、高齢者や障害者の方々が優先されることを確保する必要

がある。

- ・「ベビーカー優先スペース」については、「ルール」として明確化しその普及を図るとともに、視覚的に明示するための「マーク」を掲示することも必要と考えられる。

<中長期的な対応>

- ・様々な利用者にとって、より使いやすい公共交通機関等とするためには、より一層のバリアフリー化の推進も求められる。